

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成24年9月27日 (2012.9.27)

【公開番号】特開2012-62328(P2012-62328A)

【公開日】平成24年3月29日 (2012.3.29)

【年通号数】公開・登録公報2012-013

【出願番号】特願2011-283904(P2011-283904)

【国際特許分類】

A 6 1 K 47/16 (2006.01)

A 6 1 K 47/26 (2006.01)

A 6 1 K 47/02 (2006.01)

A 6 1 K 47/04 (2006.01)

A 6 1 K 47/30 (2006.01)

A 6 1 K 47/18 (2006.01)

A 6 1 K 9/06 (2006.01)

A 6 1 K 9/10 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 47/16

A 6 1 K 47/26

A 6 1 K 47/02

A 6 1 K 47/04

A 6 1 K 47/30

A 6 1 K 47/18

A 6 1 K 9/06

A 6 1 K 9/10

【手続補正書】

【提出日】平成24年8月10日 (2012.8.10)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

局所送達ビヒクルであって、

約 0.25 M ~ 約 1.5 M のイオン強度を有しかつ一酸化窒素ドナーを含む、不利な生物物理学的環境；および

局所的医学的状态を処置するために有効な投与量の薬剤；

を含み、該投与量は、少なくとも約 1 重量%であり、該薬剤は、イブプロフェン、ナプロキセン、セレコキシブ、レフェコキシブ、モルヒネ、プロボキシフェン、オキシコドン、またはヒドロコドンからなる群より選択される、局所送達ビヒクル。

【請求項 2】

前記薬剤はイブプロフェンである、請求項 1 に記載の局所送達ビヒクル。

【請求項 3】

前記不利な生物物理学的環境は少なくとも約 1 M のイオン強度を有する、請求項 1 に記載の局所送達ビヒクル。

【請求項 4】

前記不利な生物物理学的环境はイオン性塩を含む、請求項 1 に記載の局所送達ビヒクル。

【請求項 5】

前記イオン性塩は約 5 % (重量/体積) ~ 約 50 % (重量/体積) の濃度で存在する、請求項 4 に記載の局所送達ビヒクル。

【請求項 6】

前記イオン性塩は塩化ナトリウムを含む、請求項 4 に記載の局所送達ビヒクル。

【請求項 7】

前記イオン性塩は塩化コリンを含む、請求項 4 に記載の局所送達ビヒクル。

【請求項 8】

前記イオン性塩は塩化マグネシウムを含む、請求項 4 に記載の局所送達ビヒクル。

【請求項 9】

前記イオン性塩は塩化カルシウムを含む、請求項 4 に記載の局所送達ビヒクル。

【請求項 10】

前記一酸化窒素ドナーは L - アルギニンを含む、請求項 1 に記載の局所送達ビヒクル。

【請求項 11】

前記一酸化窒素ドナーは塩酸 L - アルギニンを含む、請求項 1 に記載の局所送達ビヒクル。

【請求項 12】

前記一酸化窒素ドナーは少なくとも 0.5 % (重量/体積) の濃度で存在する、請求項 1 に記載の局所送達ビヒクル。

【請求項 13】

前記一酸化窒素ドナーは、約 0.5 % (重量/体積) ~ 約 25 % (重量/体積) の濃度で存在する、請求項 1 に記載の局所送達ビヒクル。

【請求項 14】

前記不利な生物物理学的环境は約 3 ~ 約 11 である pH を有する、請求項 1 に記載の局所送達ビヒクル。

【請求項 15】

前記不利な生物物理学的环境は少なくとも約 9 である pH を有する、請求項 1 に記載の局所送達ビヒクル。

【請求項 16】

前記不利な生物物理学的环境は約 5 未満である pH を有する、請求項 1 に記載の局所送達ビヒクル。

【請求項 17】

クリームである、請求項 1 に記載の局所送達ビヒクル。

【請求項 18】

ゲルである、請求項 1 に記載の局所送達ビヒクル。

【請求項 19】

ローションである、請求項 1 に記載の局所送達ビヒクル。

【請求項 20】

前記薬剤はナプロキセンである、請求項 1 に記載の局所送達ビヒクル。

【請求項 21】

前記薬剤はセレコキシブである、請求項 1 に記載の局所送達ビヒクル。

【請求項 22】

前記薬剤はレフェコキシブである、請求項 1 に記載の局所送達ビヒクル。

【請求項 23】

前記薬剤はモルヒネである、請求項 1 に記載の局所送達ビヒクル。

【請求項 24】

前記薬剤はプロボキシフェンである、請求項 1 に記載の局所送達ビヒクル。

【請求項 25】

前記薬剤はオキシコドンである、請求項 1 に記載の局所送達ビヒクル。

【請求項 26】

前記薬剤はヒドロコドンである、請求項 1 に記載の局所送達ビヒクル。

【請求項 27】

添加物をさらに含む、請求項 1 に記載の局所送達ビヒクル。

【請求項 28】

前記添加物はテオフィリンを含む、請求項 27 に記載の局所送達ビヒクル。

【請求項 29】

前記不利な生物物理学的环境は尿素を含む、請求項 1 に記載の局所送達ビヒクル。

【請求項 30】

前記不利な生物物理学的环境は糖質を含む、請求項 1 に記載の局所送達ビヒクル。

【請求項 31】

前記不利な生物物理学的环境は、少なくとも約 1000 であるオクタノール - 水分配係数を有する成分を含む、請求項 1 に記載の局所送達ビヒクル。

【請求項 32】

前記不利な生物物理学的环境は、約 10^{-3} 未満であるオクタノール - 水分配係数を有する成分を含む、請求項 1 に記載の局所送達ビヒクル。

【請求項 33】

前記不利な生物物理学的环境は、角質層を通るように前記薬剤を駆動可能である、請求項 1 に記載の局所送達ビヒクル。

【請求項 34】

前記不利な生物物理学的环境はケイ素含有物質を含む、請求項 1 に記載の局所送達ビヒクル。

【請求項 35】

前記ケイ素含有物質は、ポリジメチルシロキサン、シクロペンタシロキサン、ジメチコール、またはジメチコーンのうちの 1 種以上を含む、請求項 34 に記載の局所送達ビヒクル。

【請求項 36】

前記一酸化窒素ドナーは、皮膚中の血流を増大するために有効な量で存在する、請求項 1 に記載の局所送達ビヒクル。

【請求項 37】

局所送達ビヒクルであって、

約 0.25 M ~ 約 1.5 M のイオン強度を有しかつイブプロフェンおよび一酸化窒素ドナーを含む、不利な生物物理学的环境を含み、該一酸化窒素ドナーは、L - アルギニンおよび塩酸 L - アルギニンからなる群より選択され、

該イブプロフェンは、少なくとも約 1 重量 % の濃度で存在する、局所送達ビヒクル。